

I am a cat.



令和元年度 川崎市立図書館 読書普及講演会 「案外知られていない翻訳の話」

川崎市立図書館では、多くの方々に読書の楽しさを知っていただき、読書に親しんでいただくことを目的として、読書普及講演会を毎年開催しています。今年は、法政大学教授で翻訳家の金原瑞人先生をお迎えし、10月18日(金)午後6時30分から中原市民館で、「案外知られていない翻訳の話」というタイトルで講演いただきました。

講演会では、「吾輩は猫である」を英語に訳すと「I am a cat.」となるという話から、一人称が英語では「I」のみであるのに対し、日本語では私、僕、おいら、朕、さらには「みどり」「象さん」「地球」といった名詞や「走る」といった動詞まで無限にあるというお話や、英語の「I」は無色透明であるが、「I」を日本語で「僕」と訳せば「僕」という色が付き、「俺」と訳せば「俺」という色が付くという翻訳の難しさについてのお話がありました。

また、西洋美術の展示が右回りなのに対し、日本美術の展示が左回りなのは、英語が左から右に読む横書きで、日本語は右から左に読み進める縦書きであることが影響しているという話から、「星の王子さま」の原書では、左から右へ読み進めるため、挿絵での王子さまの登場シーンは王子さまがこちらを見ているような印象を受けるのに対し、縦書きの日本語版の場合、右から左へ読み進めるため、挿絵の王子さまがそっぽを向いている印象を受けるといった話や、海外のコミックは左開きであるため、日本の漫画作品を海外版へ変換する際には、絵をすべて反転させ時計や看板の文字も反転させる必要があったといった話など、翻訳家として活動されている先生ならではの興味深い話を時にユーモアを交えながらお話しいただきました。

参加された方々からは「日本語表現の多様さゆえの悩み」「普段は気づかない横書きや縦書きによる違いなど、翻訳家の苦労や敏感さにびっくり!」といった感想が寄せられました。



たくさんの参加者が熱心に聞き入っていました



第40回

このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介しています。

伝統野菜「のらぼう菜」

東京の地野菜として知られている「のらぼう菜」ですが、川崎市北部地域でも古くから栽培されてきました。現在、神奈川県農林水産物ブランド「かながわブランド」や本市の「かわさき農産物ブランド」に認定されています。また、「のらぼう菜」から誕生した新品種「川崎市農技1号」が、平成31年(2019年)2月に品種登録されました。



日本お菓子ばなし
川崎の巻
吉田菊次郎
時事通信出版局

『日本お菓子ばなし 川崎の巻』 吉田菊次郎／編著 時事通信出版局 2011

川崎市の特産品を使ったスイーツを紹介しています。果物、野菜、そのほか意外な食材も使って、目にも楽しいお菓子上げています。のらぼう菜で作る焼き菓子を、ぜひお試しください。

『菜の花食堂のささやかな事件簿【3】』 碧野圭／著 大和書房 2018

菜の花食堂の店主靖子先生が、生活の中のささやかな謎を解いていくミステリー小説のシリーズ3巻目に、「のらぼう菜は試みる」という章があります。今回は、のらぼう菜を作る地元農家の無人販売で起きた不思議を、みごと解き明かします。



かわさき菅で育んだ
のらぼう
かわさき「のらぼう」
プロジェクト

『かわさき菅で育んだ のらぼう』

菅ののらぼう保存会会長 高橋孝次／監修 かわさき「のらぼう」プロジェクト 2018

川崎市北部菅地区で長い間栽培されてきた伝統野菜「のらぼう菜」。のらぼう菜ってどんな野菜?どこからやってきたの?といったことから、のらぼう菜の育て方やレシピまで、のらぼう菜の魅力を余すところなく伝えてくれる1冊です。



菜の花食堂の
ささやかな事件簿【3】
碧野圭
大和書房